

2022年6月3日号掲載



各地の話題 川崎町

地域に根付く新規就農者と新商品



2017年より川崎町今宿古閑地区に移住し、新規就農した岩渕正樹さん(41)は、さつまいも栽培に取り組んでいる。

岩渕さんは様々な農業研修を受けた後、川崎町に就農した。一人での経営に苦勞していたが消防団に入るなどして、積極的に地域と関わり、周囲の助けを受けながら経営している。

川崎町では、さつまいもの栽培者は少ないが、岩渕さんは「ここは土質や気候が栽培に適している」と語る。岩渕さんの芋は糖度も高く全国の名産地の芋にも品質で引けを取らない。

また、加工品として焼き芋の干し芋を作り、販売している。焼き芋のねっとりした柔らかさと干し芋の熟成された旨味が両立しており、干し芋を敬遠する若い世代にもリピーターが多い。販売会では地元客が集まる人気ぶりだ。

今後の課題は安定した販売先の確保だ。販路の新規開拓や町外へのPR活動、商品の安定供給に力を注ぐ。

地域でも集落営農組織の構成員として活躍しており、若手の担い手として期待する声も多く上がっている。



【記事提供：川崎町農業委員会】